



# 島の物語

大昔、アマミチューの夫婦がいて子どもがいまいませんでした。この夫婦はどこから来たかわかりませんが、雄と雌

大昔、とても大きな巨人がモッココを使って土山を運んでいました。ある日、歩いている途中でモッココの縄が切れて、土が落ちました。落ちた場所が今のうるま市石川の世宗津の森公園のあたりになります。もうひとつ落ちた場所があって、それが今の浜比嘉島です。昔、そのおはなしをおじいさんから聞きました。

(うるま市石川出身、大正生まれの女性)



**シルミチュー**

比嘉村落の南南東に位置する森のなかに大きなガマ(洞窟)があります。比嘉ではアマミチュー、シルミチューが住んだ場所と伝えられています。

毎年、旧正月の年頭拝みには比嘉区自治会が中心になって村落のノロ(神女)と旧家の有志たちが豊稔と無病息災と子孫繁栄を祈願し、小学校の子どもたちが踊りなどを奉納しています。また、洞窟のなかには鍾乳石があり、子宝の授かる霊石とも知られ、子授けの信仰が行なわれています。

## 浜比嘉島の概要

浜比嘉島には浜と比嘉の村落があります。浜比嘉大橋を渡って右側の村落が浜、左側の村落が比嘉です。比嘉村落には兼久(かねく=方言で砂地の意味)という地域があります。

### 浜 HAMA

- 面積0.84km<sup>2</sup>
- 人口321人
- 世帯数137世帯

※面積は2010年1月現在。  
人口、世帯数は2010年12月現在。



### 比嘉 HIGA

- 面積1.35km<sup>2</sup>
- 人口216人
- 世帯数125世帯

※面積は2010年1月現在。  
人口、世帯数は2010年12月現在。



**浮原島 UKIBARU**

勝連半島の東方約6.7kmに位置する小さな無人島です。1945年前後までは比嘉の漁師が暮らしていました。現在は自衛隊や米軍の訓練場になっています。

1987年12月に沖縄県教育委員会によって、「浮原島遺跡」が発見されました。遺跡は、島のほぼ中央に位置する掘り込み井戸の南側に分布しています。採集された土器は、沖縄貝塚時代後期(約2,000年前)に属するものと考えられます。

## INFORMATION

**浜比嘉島**

勝連半島の東方約5kmの海上に位置し、アダン、ススキ、ソテツが山肌を覆う。

- 面積/2.45km<sup>2</sup>
- 周囲/6.6km
- 最高部/78.7m
- 地質/泥炭層・琉球石灰岩

**沖縄県うるま市教育委員会**  
〒904-2226 沖縄県うるま市字仲嶺175  
電話(098) 973-4400



# 浜比嘉島

## HAMAHIGA

浜比嘉島は通称「ばま」と呼ばれています。島の周辺の人たちは浜比嘉島をみて、フクギの屋敷林と石垣、砂地の路地が目立つきれいな景観がとても心に残ったようです。

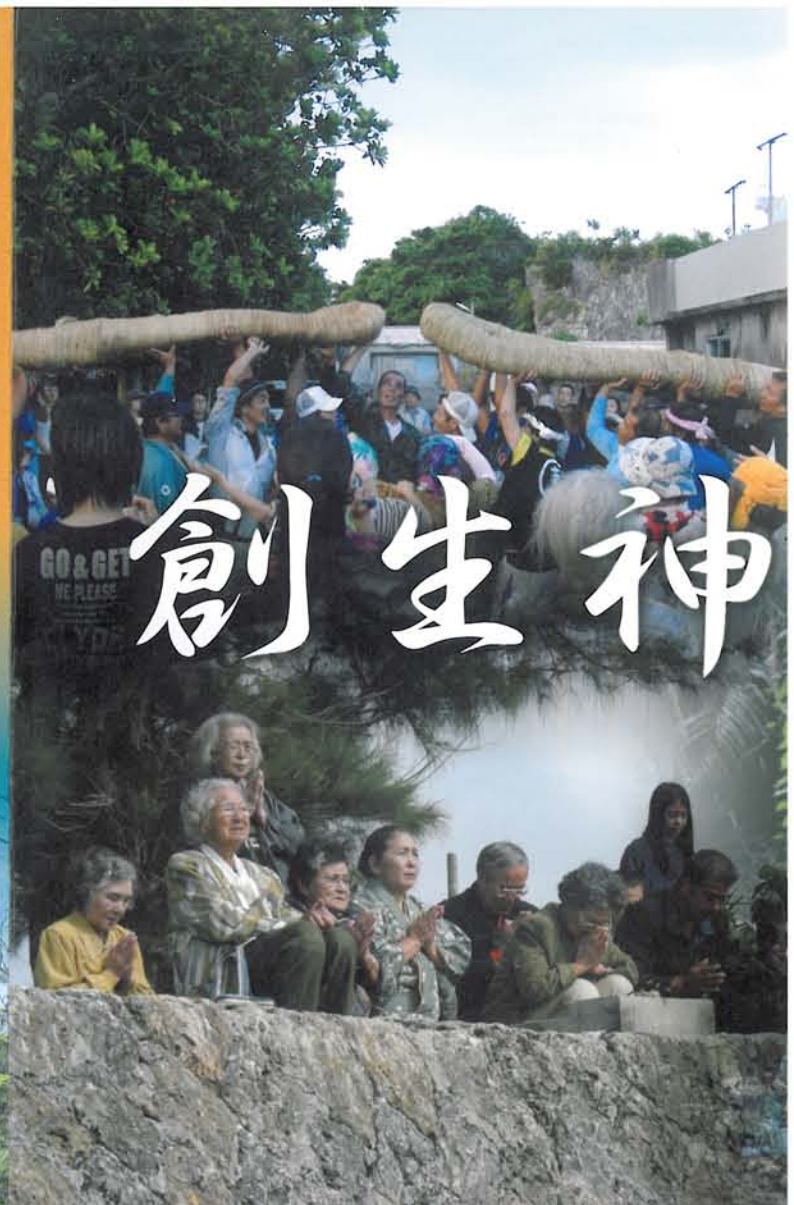
また、17世紀に琉球王府が編纂した『琉球国高究帳』にも勝連間切に「ばま島」と記されています。



沖縄県うるま市教育委員会



比嘉グスクからみた眺望



# 創生神

のセエグワ(バック)がアマミチューのところへやって来ましたが、その虫が交尾したので、この夫婦は子どもをつくることを覚え、浜比嘉島から子孫が増えていきました。

(うるま市勝連浜出身、明治生まれの女性)

シルミチューは天から降りると、一番初めに久高島に渡ったが、ガマ(洞窟)がありませんでした。次に津堅島へ渡り、ガマをみつけたが、水がありませんでした。そしてガマと水がある浜比嘉島へやってきて、「比嘉には水があるから、こっちで住んでいこう。」と言いました。

(うるま市勝連浜出身、明治生まれの男性)



**東の御嶽(シヌグ堂)**

この御嶽では、旧暦6月と8月の28日にシヌグ祭を公民館が中心になって神女が参加して行ないます。祭礼は、お粥をつくり、浜比嘉島のどなりにある戦地島にむかって選擇します。シヌグの由来は、昔、戦に敗れた南山の平良忠臣とその仲間が7~8名、浜比嘉島に渡ってシヌグ堂に身を隠し、住民に頼んで島の周囲を警戒させ、難を凌いだと伝えられています。シヌグ堂の海岸付近には沖縄貝塚時代後期の土器も採集されました。



# 浜比嘉島の文化財

## 21 アマミチューの墓



比嘉村落の東側にはアマンジと呼ばれる小島があります。その島の岩陰を利用して墓をつくり、久場島から移したアマミチューなどの骨を納め、祀るようになりました。この墓では毎年、旧正月の年頭拝みなどで豊稔と無病息災と子孫繁栄を祈願します。また、長旅で島から出る時や外国に移住する時にも拝みました。

## 23 ソウジ御嶽



この御嶽は比嘉村落から兼久へ向う途中の海岸に位置します。近くにはソーシガーもあります。その御嶽は1970年頃の道の拡張工事によって現在の場所に移されました。道路にあったソーシ御嶽は山のなかにある御嶽を遷すために設けられました。住民はその山のなかまで足を運ぶのが困難であったために移したようです。現在は旧暦の年頭拝みで祈願します。

## 24 ブートウイチーチ



この石柱は、子どもが成長し、この石よりも高くなると、村の賦役の対象となりました。そこで、賦役を取る石の意味で、ブートウイチーチと呼ばれました。以前は石の高さが4尺(120cm)ほどでしたが、現在は小さくみえます。また、その石には比嘉グスクの神様が座ったり、馬のたづなを結んだりすると伝えられています。

## 9 アガリガー



アガリ(東)ガーは村の東側に位置することでその名の由来となっています。戦前は水が豊富だったことから生活水や洗濯の場所として使われていました。戦後、復帰前の沖縄の訪れた民俗学者の宮本常一はこの井泉で婦人たちが井戸端会議をしているようすを一枚の写真におさめています。現在は旧暦の年頭拝みなどで祈願します。

## 11 ハルガー(ウキンジュガー)



「球陽」には1792(乾隆57)年と1830(道光10)年の項目に比嘉村落の大川原で水田の用水路の工事を行った記事が確認できます。現在は一部の農水として利用されています。今でもハルガーの近くには水田の跡地とわかる蒲の植生がみられます。



ニヤー



サシ石



### 浜比嘉島を歩く前に読んでみよう!

- 宮本 常一 / 『私の日本地図8(沖縄)』、同友館、1970年。
- 多和田真淳 / 『多和田真淳選集』、古稀記念多和田真淳選集刊行会、1980年。
- 勝連町教育委員会 / 『勝連町の文化財第17集 勝連町の遺跡』、1993年。
- 連藤庄治編 / 『かつれんの民話 離島篇』、勝連町教育委員会、1990年。
- うるま市立海の文化資料館編 / 『浜比嘉島のシリケンイモリ』、2011年。

### 民俗文化財・その他文化財

- 1 西の御嶽(イリガー)
- 2 ビジュアル神
- 3 メーヌハルの拝所
- 4 竜宮神
- 5 闘牛場跡
- 6 ガンヤー(倉庫)
- 7 慰霊碑・シェリ大佐記念碑
- 8 線刻石柱
- 9 地頭代火の神(浜)
- 10 ヌンドウチ
- 11 東の御嶽(シヌグ堂)
- 12 イビ

### 井泉

- 13 ウサチ竜宮神
- 14 ヤマトウンチュ墓の石碑
- 15 アジ墓
- 16 ノロ墓
- 17 ヌンドウチ
- 18 地頭代火の神(比嘉)
- 19 アンビナー
- 20 旧公民館
- 21 アマミチューの墓(アマンジ)
- 22 ニヤー(火の神)
- 23 村屋跡
- 24 ブートウイチーチ
- 25 平家の墓
- 26 慰霊碑

### 遺跡

- 1 シーローガー(水道ガー)
- 2 メーガー(ウブガー)
- 3 アガリガー
- 4 ユチャガー(世ちゃ川)
- 5 シーローガー
- 6 ハマガー(ウブガー)
- 7 ウィヌカー
- 8 ミーガー
- 9 アガリガー
- 10 チーガー
- 11 ハルガー(ウキンジュガー)
- 12 ソウジガー
- 13 チキンガー
- 14 浜比嘉中の御嶽洞窟遺跡
- 15 浜比嘉はちまん洞窟遺跡
- 16 浜比嘉小学校東方遺跡
- 17 浜比嘉浜川洞窟遺跡
- 18 比嘉グスク
- 19 比嘉大川遺跡



西の御嶽



比嘉グスク



線刻石柱



護岸跡

## 4 竜宮神



埋め立てする前には海岸に平たい大きな石がありました。そこは竜宮と言われ、海獣のジュゴンや魚類、家畜の豚などを解体する場所でした。旧暦3月3日のサングチャーは、その竜宮で漁師や神女、公民館の自治会長などが集まり、魚を供え、豊漁と航海安全などを祈願します。その時は「サンヌイユ、コイナー、スークヌイユ、コイナー、マクブヌイユ、コイナー。」などと歌いました。

## 9 地頭代火の神(浜)



浜の公民館敷地内にコンクリート製の祠があり、火の神の依代として三個の壺石を祀っています。琉球王府時代の浜は地頭代のおえか地(役地)があり、地頭代となるために浜地頭を務めなければならなかったといわれています。その火の神が奉安されたのはその理由があり、貴重な文化財です。それは「琉球国由来記」(1713年)にある「殿(浜里主所)」と合祀されています。現在も村の祭祀では地頭代火の神を中心に祈願が行なわれています。

## 14 ヤマトウンチュ墓の石碑



この墓は、天保10(1839)年の水戸藩船が漂着した歴史を伝える文化財です。「天保10年水戸藩廻船漂着文書」には、救助された水戸藩の周蔵と仙台領の宇(知)太郎が無事帰国することができ、救助前に死亡した南部領の五助(18歳)、源助(50歳)、龜松(31歳)、仙台領の吉蔵(30歳)、仲蔵(47歳)の5人を浜比嘉島に葬ったと伝えられています。

## 2 メーガー(ウブガー)



この井泉は浜村落で赤ちゃんが産まれると、この泉で産水をくんだ。その理由からウブガーとも呼ばれています。旧正月の若水の水は前ヌカーから汲んできました。また、12年に1度、亥の年に行なわれるウフアシビの行事でも祈願し、踊りが奉納されます。浜貝塚や浜桃原遺跡は、その井泉に近いことから沖縄貝塚時代後期から近世にかけてこの地域で生活していた人たちは前ヌカーの水を使っていたと考えられます。

## 19 比嘉クバ島遺跡



この遺跡は琉球大学地理学研究会によって発見されました。比嘉村落の兼久の海岸に独立した岩の島で、ヤシ科のクバが生い茂っていることからクバ島と呼ばれています。遺物は島の中央部の岩場から土器や石器が採集され、土器の特徴から沖縄貝塚時代後期の遺跡と考えられます。おそらく、祭祀の遺跡の可能性もあります。

- 印は民俗文化財・その他の文化財
- 印は遺跡
- 印は井泉